

議長定例記者会見 会見録

日時：平成27年8月5日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について
三重県議会インターンシップ実習生の決定について

2 質疑項目

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について
三重県議会インターンシップ実習生の決定について
情報発信について
三重県戦没者追悼式について

1 発表事項

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について
(議長)おはようございます。ただ今から、8月の議長定例記者会見を始めます。情報発信力が少ない三重県議会でございますので、こうして早朝から記者の皆様にお集まりいただくのは私ども県議会にとっては貴重で大切な時間でございます。心から感謝を申し上げたいと思います。まず始めに、「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について、発表させていただきます。大変たくさんのご意見が紀伊半島の各県議から出されましたので、ご報告させていただきたいと思います。「第9回紀伊半島三県議会交流会議」は、紀伊半島地域に共通する課題について、奈良県議会、和歌山県議会、三重県議会の三者で意見交換を行うために、7月15日に尾鷲市にあります熊野古道センターで開催をいたしました。三県の議員25名が出席しました。本県議会からは、私と中森副議長のほか、東紀州地域選出の議員など、総勢9名の議員が出席しました。今回の交流会議では、観光振興、林業・木材産業振興、大規模地震対策の推進の3つの議題について、それぞれ意見交換を行い、次の内容で三県が連携して取り組んでいくことを合意いたしました。まず、観光振興については、トレイルランニングなどのスポーツイベントを活用した取組、吉野熊野国立公園指定80周年を契機とした新たな取組などの誘客促進について意見が出され、三県が連携して取り組んでいる「吉野・高野・熊野の国」事業の推進をはじめ、更なる誘客促進に向けて、歴史・文化、豊かな自然などを三県が連携して情報発信していくことについて合意しました。また、林業・木材産業振興については、首都圏での商談会開催による新たな販路開拓や木質バイオマスの熱利用などに

ついて意見が出され、木質バイオマスも含めた木材の需給動態の把握に向けた情報交換などについて連携していくことを確認するとともに、引き続き地域材の需要拡大に向けて、国に要望していくことを合意しました。更に、大規模地震対策の推進については、紀伊半島が一体となったドクターヘリの活用そして連携及び柔軟な運用対応などについて意見が出され、三県の相互応援体制を更に連携強化する必要性について合意しました。今後の予定ですが、林業・木材産業振興において合意しました地域材の需要拡大に向けましては、開催県である本県議会において要望書を取りまとめ、三県議長の連名で国等に要望書を提出していくことになっております。

三重県議会インターンシップ実習生の決定について

(議長)次に、三重県議会インターンシップ実習生の決定について、発表させていただきます。平成21年度から実施しています三重県議会インターンシップ実習生の受入れについて、本年度は、3つの大学院から計3名の応募があり、厳正な選定を行った結果、2名の方を実習生として受入れることを決定いたしました。お手元の資料をご覧ください。受入れを決定したインターンシップ実習生は、内記 恵和(ないき けいわ)さん(22歳、男性)北海道大学公共政策大学院生です。そして小川 拓馬(おがわ たくま)さん(22歳、男性)京都大学公共政策大学院生の2名でございます。実習期間は、9月7日から18日までの10日間で、実習内容としては、県議会の取組や業務内容の説明、委員会や本会議の傍聴、議員との対話・交流を通しての意見発表などを予定しています。インターンシップ実習生には、今回の実習を通して、地方議会への理解を深めるとともに、今後のキャリア形成につなげていただければと考えております。なお、実習の開始に当たっては、私から実習生に受入書の交付を行う予定です。この交付の日時及び場所は、別途ご案内をさせていただくことになっております。以上が本日発表させていただく項目2点でございます。よろしくお願いたします。

2 質疑応答

「第9回紀伊半島三県議会交流会議」の開催結果について

(質問)林業振興についてですが、「高級材を選んで出す林業」から「全てを搬出して他用途に供給する林業」へというのは、全てを搬出して他用途に供給する林業に取り組んでいるという認識を三県共通して持っているということなんですか。

(議長)だいたいそういうことです。

(質問) 要はより利益を追求していく林業になっているということによろしいですか。

(議長) 今回出た意見で多かったのは、首都圏で商談会をしたりとか、それから三県ともまさに森林・林業は地域の宝ですし、これからの地方創生にも絡んでくる話なんですけど、販売経路の拡大をしていく、そういう思いが強かったことと、それから木質バイオマスの熱利用ですね。こういったことについて、前向きのご意見がいろいろと出されました。それで、各県だけというよりは、共通の課題を持っている三県が力を合わせ連携して、国に物を申し出ていこうという方向でまとまっていったということでございます。

(質問) 今後、三重県議会の方から三県の要望書として出されるということなんでしょうか。

(議長) 事務的にというんですか、主催者側がこちらだったということもあって、まとめるにあたっては出すときは三県の議長名ということになるかというふうに思いますし、こういう内容でいかがでございましょうかということは、それぞれの県議会にきちんと確認をして、意見を聞いてございますのでまとめた形で、こちらがきちっと向こうに提出をしていくと。代表でこちらがやるということですが、三県の連名でということでご理解いただきたいと思います。

(質問) ドクターヘリに関してなんですけど、ここでは意見が出されたというふうに書いてありますが、決まったことというのはあるんですか。

(議長) 奈良県がまだドクターヘリが完備されていない関係もあるんですね。ドクターヘリにつきましては、費用の関係とか台数の限りもございまして、まずはみなさんですね、それぞれ所有しているドクターヘリを活かしていこうということで奈良県もですね、ドクターヘリを確保できるようになった場合はそれを三県で調整をしていこうと、そんな方向でお話もさせていただいたところでございます。そのあと開かれた三県の知事会議でもそんな方向が確認をされたと聞いておりますので、知事部局ともそのへんの具体化に向けた議論をしていきたいなというふうに考えております。

三重県議会インターンシップ実習生の決定について

(質問) 最後にインターンシップですけども、事務に従事するということですが、具体的にどんなお仕事をされるかっていうのは決まっていますでしょうか。

(議長) 先程申し上げましたような形で、そもそもインターンシップの目標の中に、単に議会の仕事のお手伝いをしていただけじゃなしにですね、三重県議会に対して全くのアマチュアな方がお越しをいただいて、議会に対するいろんな意識を持っていただく。また、そういった仕事をしていく過程で議会に対してですね、いろんな感じたこととか、そういったことを言っていただく、そういうことで議会としての情報公開にもつながってくるのではないかというように思いを持っておりますので、事務的にはいろんなお手伝いをさせていただきますけれども、目的はもうひとつ、半分以上はですね、議会のことについていろいろ学んでいただいて、その人たちにも育っていただいて、そんなところもでございます。

情報発信について

(質問) 会見の冒頭におっしゃった、情報発信力が少ないということで、議長自身がそれをどういうところで感じたりとか、そのためにどういったことができるかっていうのは、何か思うところありますか。

(議長) まさに今ですね、サミットとかですね、いろいろ三重県が注目をされている時でございます。私も議長という立場がございますので、随分地域の事業者の方とかあるいは観光関係の業務に携わっている県民の皆さんからもいろいろご意見をいただきますけれども、実行をまずしていくのは執行部側ということで、例えばサミットの話ですけれども、知事も非常に元気で、執行部側としていろんな情報発信を、具体的なものを出していきますが、議会側はその出てきたことに対してしっかりと予算面だとか、あるいは県民の生活にどう影響するんだとか、あとから県議会の中でいろんな皆さん方が、執行部に対して意見を出したり、あるいは応援の言葉を出したりっていう形になりますと、どうしてもこう、まず最初に執行部側の具体的にやるものがやっぱりオープンに先にされますので、なかなか我々としてはですね、そういった意味で議会が本当に県民の税金、執行部側がやっていることを県民のためにチェックしていく、そのへんの把握をしてそして皆さんに述べていくっていうのは、議会開会中にどうしてもなってしまいますので、そういった意味では、少しですね、県民の皆さんに伝わるところが、ちょっと弱いかなという思いは普段はしておりますので、もっともっとですね、議会のチェックとか活動についてオープンにしていける必要があるんじゃないかな。そういった意味では、こうして月に1回ですけども、こういう場をですね、皆さんと共同でさせていただいて、発表できるということは、非常に貴重だというふうに思っております。

(質問) 任期中に具体的に新しいことを広報の体制で行うとか企画しているというのがありますか。

(議長) 情報発信の担当といいですか、力を入れていただいているのは副議長なので、副議長に相談をさせていただきながらですね、議会のことを情報発信していくようにしたいなと思います。副議長にちょっと訊いていただければ、熱い思いを語っていただけるとと思います。

(副議長) よろしいですか。発言の機会をいただきましてありがとうございます。なかなか私も発言の機会がなかったもので。広聴広報の責任者としてですね、従来県議会だよりとか県議会新聞とか、いろんなツールで議会の情報発信をさせていただいております。もちろん、議会中はですね、議会のテレビ中継だとかインターネット中継だとか、いろんな方法で議会活動の情報については、できる限りやっています。ただ県民であったりいろんなところから見ると、まだまだ十分じゃないところもあろうかなということもわかっておりまして。この本日の議長記者会見も非常に大きなウェイトがあるのではないかな。また、私ども広聴広報会議でもですね、いろんな議論が交わされております。もちろん、広報の仕方についてはですね、独自の財源があるわけでもないわけですので、県政だよりみえの方に追従したりですね、合わせていかざるを得ないというところもありましてですね、なかなかそう簡単にはできないところも承知しております。今回来年に向けて、県政だよりみえの広報の在り方が少し見直されるということもありまして、我々の県議会だよりもですね、いろんな方法で各会派の意見を聞きながら今まとめているところでございます。それから今、私も就任のときにですね、そういうことに積極的に取り組むということも発表させていただきまして、議会の方で議員それぞれがですね、もう少し広報の在り方、例えば Facebook とかですね、そういうような新たなツールの活用についての勉強会も開催したいなと、このように広聴広報会議では話が出てますので、また議長にお願いしてですね、そういう勉強会の開催を議会の方でできないかなとか、それを受けてですね、新たなツールを活用した、広報の在り方も拡大できればなど、こういうふうに考えております。以上です。

(質問) Facebook の勉強会はもう開催するっていうことでいいですか。

(議長) どうしても議会っていうところはそういった大きな流れに対してですね、若干、遅れ気味なところもありますので、議員の皆さん方は、結構それぞれ Facebook をお持ちで、私もですね、議長になってからは、あまりメディアで載らないさっきの紀伊半島三県議会交流会議なんかも載せていただいております。

すけれども、この前は近畿2府8県議会議長会に行ってきたんですけれども、結構いろんな議論がされたり、あまり詳しいことは載せないんですけれども、県議会の私どもの部屋へですね、こういう団体の方がお見えになったとか、なるべく議長として動いていることをですね、自分のFacebookへちょっと一部ずつ載せているんですけれども、他の方からやっぱり県議会の今までわからなかった、あるいは、議長の部屋なんか見たことないけどそこへ漁師の方が来ているんな話をしたとかですね、そんなことが出るだけでもですね、県民の皆さんには、「三重県議会が身近になったな。」そんな声もいただいていますので、今副議長がFacebookをもっと活用して、県議会の情報発信をするっていうのは非常に素晴らしいアイデアだというふうに思いますので、私自身もそういったところとも連携できるような形に持っていきたいなというふうに思っております。単なる情報発信プラスそれぞれの議員の人間臭さみたいなものも、出てまいりますので、良いアイデアかなというふうに理解しております。

(質問) Facebookの活用というお話でしたけども昨今ですね、Twitterの扱いでいろいろと騒ぎになっている。議員個人のTwitterアカウントでつぶやいたことが大きな波紋を招くということが起きてますけども、そういったSNSの活用についてですね、県議会としてどういうふうに何かやって欲しいとかですね、思いなどがありましたら。

(議長)そうですね。Twitterは私もあまり関わってないので、ちょっとわからないんですけども、どっちにしてもFacebookにしても、発言の中身というのが非常にデリケートな部分があるというふうに思いますので、先程ちょっとちらりと人間性みたいな表現をしましたけれども、政治的に際どい部分だとかですね、あるいは人権に関わるようなものだとか、差別の問題だとか、結構Facebookとかと同じだというふうに思うんですけど、つぶやいた時に反響が出る場合もありますので、そういったことについては個々の議員の皆さんでそういったことをきちっと認識した上で使っていただくことが大事ななというふうに思いますね。炎上したりしますもんね。内容によってはね。

三重県戦没者追悼式について

(質問)先月29日に県の戦没者追悼式があったと思うんですけれども、そちらに参加されて、どういうお気持ちになられたかというのを伺いたしたいと思います。

(議長)戦後70年ということで非常に厳粛に行われたと思いますし、それから一番私が感動したのは、今遺族がですね、戦後70年ですので、戦争に行か

れた方自体が、90歳前後になってきているわけです。それから空襲で逃げまどった人達は70代後半から80代そういう時代で、戦争とかあるいは平和というそういう思いが風化をしていく時代にまさに入っているというふうに思うんですね。そんな中でお孫さん、ひ孫さんになるんですか、中学生の方達が遺族の方と混ざってですね、お参りをされたというあのシーンは本当に平和の尊さを引き継いでいく、二度と戦争をしてはならないということを引き継いでいく、そういった姿に映りましたので、ある市ですが、一生懸命うちもということで、探したんですがなかなか子どもが夏休みの他の行事と重なって、来られなかった、残念なんやわって、他の市のをみて、残念やって言っとったところもあったので、そういう形で行われたこと自体が非常に感動しました。それから知事部局の方で併せて平和の集いが、後からありました。ああいうことが同時にされたということも非常に素晴らしい企画であったのかなというふうに思いましたし、今回の追悼式の中で、平和の尊さがさらに未来永劫伝えられていくような、そんな戦後70年のスタートの場であったんじゃないかなというふうに私は思いましたね。

(以 上) 10時56分 終了